

○議長（小林哲雄）

日程第２ 一般質問を行います。質問の順番は通告順で行います。また、明後日、６月２９日の日曜議会においても一般質問を行うこととしておりますので、本日の持ち時間は１人当たり３０分間といたします。それでは、一般質問に入りますが、質問、答弁は簡潔にお願いいたします。

１０番、小林秀樹議員、どうぞ。

○１０番（小林秀樹）

おはようございます。１０番、小林秀樹でございます。

会場のあじさいの色がとても気持ちいい、本日の議場でございます。あじさい会場がこれだけ手入れが行き届いてきれいならば、さらにさらに、また美しい開成のあじさい祭になるかと思えます。

今日は、予定しました質問について、ただいまよりさせていただきます。

その前に、訂正が２カ所ありますので、申しわけございません、お願いいたします。質問事項の下から５行目でございます。北部地域、岡野、金井島、その次の段の２．１％、これが１．２％でございます。引き続いて、その差７．８％が６．９％でございますので、訂正をよろしくをお願いいたします。

狭い開成町、南北間格差があつてよいのですかというテーマでございます。

日本創成会議が発表しました日本の人口減少への警鐘、２０４０年に市町村が半減するという衝撃的な報告がありました。これに対して府川町長は広報で、子どもたちの元気な声が響くような町を目指してファミリーサポートセンターや子育て支援センターの設置、学童保育の拡充をしていきますと発言し、開成町は大丈夫を示されているかのようです。町長が言われるように、持続可能なまちづくりを進めてきた成果だと考えます。１０年後の人口１万９，３００人を想定しての安心発言であらうと思いますが、実は、ここに大きな課題が横たわっているのではないかと私は考えます。この解決なくして、「みんなでつくろう、元気開成」が町民皆の言葉でなくなってしまうことを私は指摘したいと思えます。

すなわち、北部地域、岡野、金井島の人口は、平成２２年比較で今年の５月対比ですがマイナス５．７％、中部・南部地域、酒田地区内を限定しておりますがプラス１．２％、その差が６．９％になります。総人口増加の中で北部地域は常に減少をたどり、南高北低の格差拡大懸念を持っております。開成町らしい子ども・子育て検討結果報告書が提出され、本年度策定される同名の支援計画の指針と受けとめますが、この中で北部地域の施設や運営が皆無であり、第五次総合計画でも見出せません。同エリア限定の全戸意識調査を実施して、格差是正の実施計画に修正すべきと考えます。

以上でございます。ありがとうございました。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

おはようございます。

小林秀樹議員があじさい祭の話をさせていただいたので、私もお礼を言わせていただきます。おかげさまで、あじさい祭、また、その後の瀬戸屋敷の風鈴まつりも盛況に開催、無事終わりましたので、改めてお礼を申し上げます。

それでは、小林秀樹議員の質問にお答えします。また、このたびの質問の中で、4人の議員さんから日本創成会議の提言に絡めたご質問がありましたので、まず、その提言の私の所見を先に述べさせていただきたいと思います。小林議員のご質問に対する答弁の中で、まことに恐縮ですが、関係する議員ごとに、そのたびに所感を述べるのは非効率ということで、まとめて今、お話をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

5月8日に、有識者らによる政策発信組織である日本創成会議が「ストップ少子化、地方元気戦略」と題する提言を発表いたしました。この中で、国立社会保障人口問題研究所の将来推計人口のデータをもとに、最近の都市間の人口移動の状況を加味して、2040年の20代から30代の女性の数を試算いたしました。その結果、2010年と比較して若年女性が半分以上に減る自治体である消滅可能都市が全国の49.8%に当たる896市区町村に上ることが明らかになりました。足柄上郡各町においても、若年女性人口変化率が軒並み50%を超える減少幅となっておりますが、開成町はマイナス13.4%にとどまっております。

2040年には日本の半数近くの自治体に消滅の可能性がある、この発表に多くの皆さんが驚かれました。私も、その1人であります。今のままのペースで地方から大都市への人口流出が続くと、20代、30代の子どもを産む世代の女性が半減し、地方が崩壊するというものであります。なぜ日本創成会議が、このタイミングで、このような発表をしたのでしょうか。これは私の立てた仮説であります。日本創成会議が安倍首相に近い存在であることを踏まえると、政府は、この提言を地方分権の一層の推進を図るためのトリガーにしたいのではと考えております。これをきっかけに広域連携の徹底や大都市近郊での新たな市町村合併を効率的に進め、最終的には道州制の議論につなげ、地方ではコンパクトシティの促進を図ることで行財政の効率化を目指したいのではないかと考えております。

この提言の発表に際し、日本創成会議の増田座長が、若者が首都圏に集中するのは日本特有の現象である、人口減少社会は避けられないが急減社会は回避しなければならないと言っております。この発言は、素直に受け入れることはできません。地方はこれまで、それぞれの地域の実情に合った定住促進策を打ち出すなどしてきております。この提言によって、消滅可能都市とレッテルを張られた自治体の住民の不安をあおり、逆に新規参入の足かせとなることや転出に拍車がかかることなどは容易に予見をされます。これまでの努力は打ち砕かれてしまいます。

開成町は、幸いにも消滅可能都市やその予備軍にはなりませんが、町の現状を十分に認識をして、世の中の動きに柔軟に対応すべきだと思っております。開

成町の今日の繁栄は、歴代の町長を中心とした先人たちの努力のたまものにはほかなりません。先人たちは、北部地域の農業環境の保全や駅周辺の整備など長期的な展望に立ったまちづくりを着実に進めつつ、今月開催されたばかりのあじさい祭や開成南小学校の新設といった町民が希望を持てる数々の施策を展開してきました。私は、これをしっかりと引き継ぎ、開成町の成功例をもって圏域全体の将来を切り開く新たな提言をしていきたいと思っております。

そのためには、今ある開成町への羨望や評価におごることなく、もっともっと元気な開成町にして、第五次総合計画の基本姿勢にある「いつまでも住み続けたいと思えるまちづくり」を停滞することなく進めていく必要があります。そして、これは私の使命です。どうしても発展のバロメーターとして人口増に目を奪われがちですが、この町に暮らす町民の幸せを実感でき、住んでいることを誇りに思えることこそが大切であり、私は、そのため、きめ細かな取り組みを引き続き進めていきたいと思っております。

以上、この件に関する私の所見とさせていただきます。

小林議員の北部地域についてであります。まず、北部地域は市街化調整区域として農地として保全されるべき農業振興地域であり、人口の増加を抑制する地域として指定されていることを先に申し上げたいと思います。一方で、これまで北部地域に対して、あじさいの里や農村公園を含む圃場整備等を行うなど、土地改良事業だけでも約47億もの投資をしており、各施策を計画に即して着実に進めてきたところでもあります。今日の開成町の発展は、土地区画整理事業などの南部地域だけがもたらしたのではなく、北部地域が持つふるさととしての魅力も寄与しているものだと思っております。北部、中部、南部、それぞれの特性に合ったバランスのとれた施策が展開されたということで、町全体の発展に結びつくものであると認識をしております。

第五次総合計画においても、北部地域の活性化は重要なポイントであります。意識調査というご提案もありましたが、自治会とも意見交換をし、地域の方々のご意見も賜りながら着実に事業を進めていきたいと考えております。具体的には、瀬戸屋敷を中心とした広域交流拠点を整備し、また、田園居住地として必要な環境整備を進めていくこととなります。ぜひ、ご意見をいただくとともに、事業へのご協力をお願いしたいと思います。

次に、議員の言われるとおり、開成町子ども・子育て支援事業計画は、開成町らしい子ども・子育て検討結果報告書で示されている子ども・子育て施策の方向性を反映して作成されるものであります。この子ども・子育て支援事業計画は、子ども・子育て支援法に基づき市町村ごとに策定される法定計画で、その内容は主に子ども・子育てに関する教育、保育、その他の子育て支援事業の必要量の分析と提供体制の確保、その円滑な実施方策でありまして、北部地域だけの施策展開を位置づける計画ではありません。

議員ご質問の関連で、開成町らしい子ども・子育て検討結果報告書の中で1点だ

け述べるならば、報告書の４、今後の望まれる姿で、幼稚園の用地候補地として金井島緑陰自由運動広場に触れております。このことについては、第五次総合計画の後期計画の中で検討、開成町の乳幼児人口の推移、特に南部地区の人口増について、よく見きわめた中で検討していきたいと考えております。

以上であります。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○１０番（小林秀樹）

１０番、小林秀樹です。

それでは、再質問させていただきます。

北部地域は、農振地域として人口増加が抑制されていることは承知しております。南高北低の格差という、過去の言葉の使われ方からしても南北問題を直感して、よい印象は受けませんが、あえて示させていただきます。示するような人口変化率、厳然と数値があらわれているわけです。このまま何もしなければ、下降の一途をたどると考えます。このことと、その格差は認識をされるのか、認識いただきたいというふうに思います。

また、今までの施策、北部、南部地域の成功例を、圏域全体の将来を切り開く提案をしたいと心強い発言をいただいておりますが、まず、その取り組み内容を聞かせていただきたいと思います。

○議長（小林哲雄）

企画政策課長。

○企画政策課長（亀井知之）

それでは、お答えさせていただきます。

まず、１点目、人口変化率、数値がしっかりあらわれているのではないかとのご質問でございますが、議員がお話のこれは町のホームページからとった人口推移でございますが、平成２２年と平成２６年の毎年５月１日現在のデータでございます。ただ、平成２２年は国勢調査の年でありまして、５月の後、１０月に１０月１日現在で再調査をしております。そのときの最新のデータが５月のときのデータよりも下がっております。岡野、金井島は下がっています。逆に、酒田地区、これは恐らく吉田島とパレット等は除いた分ということになると思うんですけども、それは逆に上がっております。

ですから、最新の数字で平成２２年と平成２６年で比較いたしますと、議員がおっしゃった岡野、金井島、マイナス５．７％、これはマイナス２．４％、実人員でマイナス３３人になります。逆に、酒田のほうは１．２％のプラスということになっておりますが、実際は０．７％のプラス、実人員が５４人の増になります。したがって、その差が６．９％というお話でしたが、この差が３．１％まで圧縮を実際はされてございます。実人員がそれぞれマイナスの３３とプラスの５４でございますので、総体、岡野、金井島１，３００人余り、それから酒田が７，３００人ぐら

いから見ますと、それほど大きな数字というふうには捉えられないのかなというふうには思っております。

ですから、格差があるというふうに認識をしているかというご質問でございますが、議員のおっしゃられる格差というものがどういうものなのか、私どもとしてはちょっと理解しにくいところでございます。所得の格差であるのか、それともインフラ等の格差であるのか、その辺について、細かいところがちょっと理解しにくいところでございますが、町といたしましては、南北間で格差があるというような認識は持ちづらいなというふうに思っています。

実際に岡野、金井島の方々にいろいろお話を伺っても、インフラ整備が足りないとか、いろいろお話は伺っておりますが、南との間で格差があるねと、そういうようなご指摘は私は受けたことが記憶にはございませんので、町としては、そういう認識を持っているというふうに、まずお話をさせていただきたいと思っております。

2番目の北部、南部の町の成功例を圏域全体にどうつなげていくのかというようなお話でございます。町長が答弁したように、開成町の現在の発展といいますか人口増につきましては、ここ10年、20年で特効薬的に行ってきた施策で伸びたものではございません。もう何十年も前から積み上げてきたものが、このところでようやく花を開いた、成果が出たということでございます。ですから、我々の町の施策が、それがそのまま圏域全体につながって、「こうすれば人口増が保てますよ」と、そういうようなことを言うつもりはございません。それぞれの町には、それぞれの考え方がございます。ただ、一つの成功例として、開成町が行ってきたことを皆さんでもう一度考えてみませんか。それが一つの町でできないことであれば、圏域全体で広域行政として展開させることもできるでしょうし、そのような中で施策を相互に考えていくような一つのきっかけにはなるのかなと、そういうふうに思っております。

以上でございます。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

10番、小林秀樹です。

数値については、国勢調査の調整がありましたので、私の数値と若干というか差がありましたので、それはそれとして受けとめます。

次に、北部に南部のような人口増を望むわけでは私はありません。農振地域として、健全性を保って維持できる姿になってほしいというふうに思います。これは、今、ご答弁にあったそのものというふうに私も受けとめますが、開成町の都市計画マスタープラン、これは平成19年の発行です。それから、町民意識調査報告書、平成23年、最新版では北部地域農業者アンケート、26年3月に発行されています。これらを調べますと、北部地区に対する施策エネルギーが感じられない、先ほど40数億の投資を今までもしてきているということには、ある理解もしますので

すが、ただ、農業の振興、それから人口の減を抑えようということについてのエネルギーが私は感じられないというふうに思います。

資料の中なんですけれども、例えば、最近報告された松田開成駒形線という計画道路が都市計画策定のときにあったのですが、これが計画が廃止されるという見通しであります。それから、今回開通した中央通り以北の延伸が途中でストップするという青写真がパースとしてあります。ここにある北部のパースは、恐らく、現時点で想定される北部開発の姿を描いていると思うのですが、それによると、やはり延伸道路が現在の県道の交差するところでストップしていると。本来の計画ならば金井島の瀬戸屋敷の東側を通して北上して怒田に抜けるということになるのですが、この説明も若干、今までの会議の中でありましたのですが、そういうことから見ましても、北部への力がちょっと足りないなと思います。

それから、最も直近の農業者へのアンケートですが、農業者へのアンケートが農業に対するこれからの皆さんの意向、あるいは町への希望というのを直接反映しているというふうに考えます。それから言いますと、かなり厳しい、いわゆる農業への希望がちょっと失われているのではないかなと思います。幾つかの項目があるのですが、10年後はどうなっていますか、農業経営者としてどうなりますか、それから後継者のめどはついていきますか、これら幾つかの項目について、なかなかやはり積極的になれないという、一口に言って、アンケート結果です。

この中で、今後、農業を新しい形で進めていく、開発してこうというには、人そのものが非常に重要になってくるというふうに考えます。まず、それぞれのアンケート、特に今回、26年にまとめられました農業者に対するアンケートについて、現在の第五次総合計画を進めるに当たっての整合性という点で何か町のほうで考えがありましたら、伺いたいというふうに思います。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

北部地域に対しての力の入れ方が足りないというような言い方をされましたけれども、今年度の予算でもお話はさせていただいたつもりなのですが、特に今年度から北部地域に力を入れていきたいと。過去の40何億の設備投資、設備投資という言い方は変ですが、農業者が効率よく農業ができるようにということで基盤整備をさせていただいた経緯があります。そういった中で何年かたった中で、これから北部地域に対して、やはり人の問題は大きいと思います。後継者の問題、開成町としても考えていかななくてはいけない問題があると思います。今のままでいいとは思っていません。

さらに北部地域に力を入れていきたいというのは、南部が定住人口ということで交流人口を増やしていきたいというふうな話をさせていただきましたけれども、そういう中で懇談会を持っていいただいて、北部のあり方について、いろいろな議論を地元の人たち、自治会長さんをはじめ農業委員の方を含めていろいろなご検討をい

ただいて、5月1日の広報にその内容を載せさせていただきました。それに沿った北部地域の活性化をしていきたいと思っています。

そういった中で格差という話が出ましたけれども、何をもって格差といえ、人口が北部地域は増えない、南部は増える、だから格差という言い方ではちょっと違うのかなと私は思っています。それぞれの土地利用を、北部地域は農振地域できちんと守っていく地域と。歴代、ずっとそのように、北部、中部、南部という土地の利用をきちんと決めてやってきた結果、今、花が開いているというふうな話をさせていただきましたけれども、それはこれからも継続をしていきたい。

そういった中で、北部地域に人が増えていくような土地利用ではありませんので、そのかわりと言っては何ですけれども、その分、やはり人が多くあそこに来ていただいてにぎわいのある形、その後の子どもの話が出ていますけれども、緑陰広場あたりは、子どもたちがあそこに集えるような、まだ確定はしておりませんが、子どもたちが自由に遊べる、自然が豊かな場所ですので、そのような場として北部地域の活性化の中に盛り込んでいながら考えていきたいと思っていますので。北部地域を軽視しているわけでもないし、これから力を入れていくということでご理解をいただきたいと思います。

以上です。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

10番、小林秀樹です。

私も、人口を何でもかんでも増やせということを言っているつもりではありません。行政の考えられているような、地域として人口を抑えながら交流人口を増やしていこう、これはもう大賛成なのです。ただ、そうであっても、現在の農業者、あるいは、これからの後継者をそこで育てる、後継者が本当に自分で住んでよかった、自分でこの職業を持ってよかったと思われるようなことを、やはり北部地域にも共通して持たなければいけないのではないかと思います。そこが私、一番懸念するところなのです。

現在の高齢者の方、60から80ぐらいの方が、かなり両地区で、両地区というか、岡野、金井島でもいらっしゃいます。それに後継をする人、さらには次・三男がそこに住み続けられるということについて、そこを大きく私は推進していただきたい。そのためには、やはり、そのための施策を打たなくてはならない。中部あるいは南部で打った施策とはまた違う、北部での定住できる極端なことを言えば優遇策をとるとか、そういうことも必要ではないかなと。そのことによって子どもが生まれ成長し、その地区が変わりなく農業地域として多くの交流人口を生んでいくのではないかなというふうに思います。

したがって、子どもを産むために、今、子育てとか子どもを産むとか、それぞれのお考えはありますけれども、とにかく子どもを産みたいという方が多いのです。

ただ、産む環境が整備されているかどうかによっても、それは大きく変わってくると思います。そのことで、子どものいろいろな施設を今、考えられておりますが、例えば、その中に3歳児保育というものを別の施設を使ってでも、強引というか、ある程度、やはり強力的に誘致したらどうであろうかというふうに思います。

○議長（小林哲雄）

秀樹議員、時間が過ぎていきますので、まとめていただけますか。

○10番（小林秀樹）

はい。3歳児幼児教育に対しての施設を緊急にでも、ほかの施設を借りてでも、つくったらどうかという私の提案でございますが、それに対してお考えをいただいて私の質問を終わりたいと思います。

○議長（小林哲雄）

秀樹議員の答弁で町長が自分の所感で4分使いましたので、4分だけは追加としてロスタイムとして認めます。お願いします。

町長。

○町長（府川裕一）

二つあると思うのですけれども、北部地域の農業者の方が後継者という問題、これはすごく大事なことで、基盤整備ができてやりやすくなったのですけれども、その後、やはり後継者問題というのは出てきていると思っています。そういう人たちのために、やはり町としてもきちんと考えなくてはいけない。一つの方策としては、今、弥一芋を復活させていただいて、価値のあるものをあそこでつくっていただいて、それを、六次産業化といいますけれども、売る場所、年間で販売できるような形で。また、それだけでも多分なかなか難しいので、やはり、もっと、今、県が未病という話をしていますので、価値のある薬草とか新しい品種の野菜を栽培できるような形とか、そういうような促しもしていく必要があるのかなと考えております。

もう一つ、3歳児保育の話なのですけれども、今年度の予算のときにお話をさせていただいたと思いますけれども、3歳児保育のかわりとして、今、開成町らしさということで、子育てすくすく幼稚園、どんぐり会館を使って、その充実をさらにしていくというお話をさせていただいておりますので、今すぐ3歳児を何とかという話では考えておりません。それを、まず今年度、26年度に予算化して、それを充実させて、それが開成町らしさと今は捉えて進めておりますので、今の時点においては3歳児保育を進めるということは考えておりません。

以上です。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員、最後、締めてください。

○10番（小林秀樹）

お考えはよくわかりました。やはり子どもを育てるというのは非常に重要であるというふうに私も考えます。これからも、子どもが……。

○議長（小林哲雄）

もう少し簡単に締めてください。もう自分の所感は結構です。

○10番（小林秀樹）

では、これで私の質問を終わります。ありがとうございました。